



家庭分野部報

平成 27年 12月 3日
大阪市立中学校教育研究会
技術・家庭部 家庭分野部
1・2ブロック発行

平成27年度近畿（奈良）大会において、大阪市の代表として、蒲生中学校の田中幸恵先生、友渕中学校の今治麻衣子先生、今津中学校の柴田直子先生が研究発表されました。第6分科会での公開授業の様子と研究に取り組まれての感想をお聞きしましたので、報告いたします。

★第6分科会について

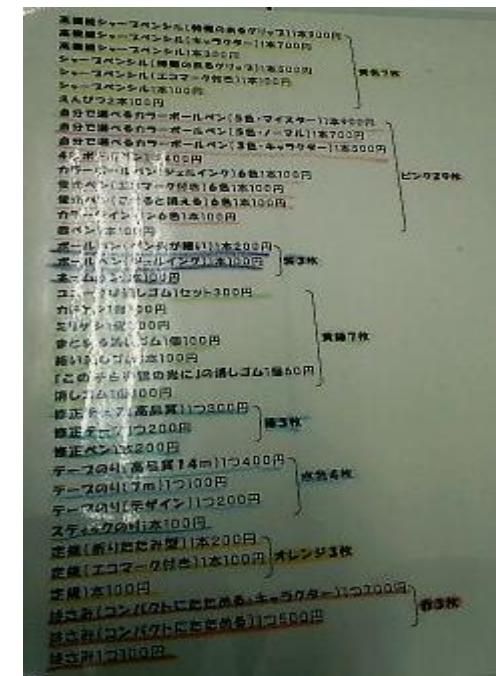
公開授業「身近な消費生活と環境」

香芝市立香芝北中学校 中川昌代先生
生徒自身の筆箱の中身の筆記用具が総額いくらになっているか計算し、いかに筆箱の中身に多額のお金がかかっているか振り替えさせ、本時は筆記用具、金額別に印刷された教材を使用し、グループ協議をしていました。大きな画用紙を筆箱とし、そこに班員と協議し筆記用具を入れていくというものです。

高額だけかわいいものを選ぶ生徒、安くて実用性のあるものだけ選ぶ生徒、男女で意見が分かれてしまう班など様々な生徒の様子が見られました。教師側の準備はとても大変だと感じましたが、筆箱、筆記用具という生徒の身近なものを教材にすることで生徒の興味関心が引き出せていたように思います。

★大阪市の発表について

ここまで多くの諸先生方にご指導、ご助言をいただいたおかげで落ち着いて発表ができたと思います。ご参加いただいた方には、道徳と教科の関連に興味を持っていただいたように感じました。この発表までには糺余曲折、様々なことがありました。正直、初めは大変な



ことになってしまった…と不安でした。初期のころは、発表などにはほど遠い内容でしたが、先生方と協議を重ねるたびに内容が深まっていきました。一校、一人のところがほとんどの教科で、普段は他の中学校の先生方と意見交換や情報交換をする機会がほとんどありませんでした。しかし、今回多くの先生方と協議を重ね、改めて教科指導について振り返ることができたこと、他の先生方の授業を知ることができ、大変勉強になりました。これは今後の私たちの教科指導の財産となりました。

3人では到底ここまでできませんでした。本当にご協力いただいた先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。アンケート実施、授業実践、研究協議など多岐にわたりご協力いただきました先生方、本当にありがとうございました。

蒲生中学校 田中幸恵 今津中学校 柴田直子 友渕中学校 今治麻衣子



★中教研1B研究会報告 技術・家庭部 家庭分野 (平成27年8月26日(水) 14時~17時)

*研究主題 「目標に準拠した評価」についての研修

*講師 大阪市教育センター 原田 省吾指導主事

学習評価は①きめ細かな学習指導の充実や生徒一人一人の学習内容の確実な定着を図るため、「目標に準じた評価」による「観点別学習状況の評価」や「評定」を着実に実施する。②学習評価においても、学力の重要な要素を示した新しい学習指導要領等の趣旨を反映させる。③学校や設置者の創意工夫を一層生かすこと。この3つの基本的な考え方に基づき、**目標に準拠した評価の着実な実施に向けて、まず行わなければいけないことは**①各題材の指導目標②評価規準の設定(題材の評価規準・学習活動に即した評価規準)③3学年を見通した指導計画を基に指導する内容、育てる資質・能力を明確にして、評価場面・評価方法を明確にすることである。と具体例をあげて説明して頂きました。



感想

*お忙しい中、原田先生に講演して頂き今までの認識を改めなければいけないことを再確認できました。

*単元ごとではなく、小単元ごと(1時間ごと)に評価規準・評価方法を作成しなければいけない。評価することに追われてしまって、指導するより評価することに重点がいくことのないようにしなければいけない。

*1時間で4観点は無理。1~2観点の評価になる。